

なぜ、としまが SDGsに取り組むのか？

「誰もが主役になれる」まちを目指す国際アート・カルチャー都市と、

「誰一人取り残さない」社会の実現を目指すSDGsは、まさに同じ方向性を目指すものです。

豊島区は「SDGs未来都市」として、SDGsへの取組みを通して「国際アート・カルチャー都市」を実現していきます。

年齢・性別・国籍等を問わず、誰をも受け入れ、誰からも受け入れられ、そして、誰もが笑顔になれる魅力あるまちづくりを目指します。

SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



**「消滅可能性都市」の指摘を乗り越え、誰もが主役になれるまちを目指す
「国際アート・カルチャー都市構想」の実現へ**

財政破綻寸前の状況だった90年代から、行財政改革や文化を基軸としたまちづくりを進め、ようやく財政黒字へと転じた豊島区。しかし、2014年には「消滅可能性都市」の指摘を受け、再びピンチに陥りました。

このピンチをチャンスに変えるべく、2015年、新たに打ち出したのが「国際アート・カルチャー都市構想」です。誰もが主役になれる劇場都市を目指し、地域一丸となって、文化を軸に据えたさまざまな取組みを推進していきました。そして今、危機を乗り越え、一人ひとりがより一層輝けるまちづくりが加速しています。



**90周年、さらに100周年のとしまの未来を描くために、
SDGsが大きな推進力となる**

こうした取組みの数々が評価され、豊島区は2020(令和2)年に「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に東京都で初めて、ダブル選定されました。今後は区内で活動を広げるだけでなく、先進的な活動を行う自治体として、SDGsのつながりを全国へと広げていくことが求められます。

また、2022(令和4)年に迎える区政90周年、そして100周年に向けて、持続可能なまちづくりはますます重要となります。「国際アート・カルチャー都市」を実現し、より良い未来をつくるために、豊島区はSDGsの推進に力を注いでいきます。

SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

としまの歴史を知る最後の砦 「豊島区立郷土資料館」。
特別展で豊島区の九〇年を振り返り、そして未来へ



2022.09.15

#文化商工部文化デザイン課

#郷土資料館管理運営グループ

#豊島区立郷土資料館

#学芸員

[OVERTURE]

としま産業振興プラザ(IKE・Biz)7階にある博物館をみなさんご存じでしょうか。区民の方々から寄贈された資料の整理や研究のほか、さまざまな展示会を開催している「豊島区立郷土資料館」。豊島区の歴史・文化を知るうえで欠かせないこの施設でのお仕事について、学芸員の秋山伸一さんにお話を伺いました。



Profile

豊島区立郷土資料館

The Museum of Toshima City

1984年開館。豊島区に関する貴重な郷土資料を収集・整理・保存し、調査・研究を行い、その成果を展示会の実施や、講座の開催などで区民へ還元している。2017年にリニューアル。豊島区の歴史・文化に関する理解を深め、かつ区民の憩いの場となることを目指している。

大きく変化したとしまのまちで、昔自分の先祖が住んでいた場所はどこだろうか――。

手がかりがいくつかあれば、そんな素朴な疑問にもお答えできます。としまの歴史を知る「最後の砦」となるのが、「豊島区立郷土資料館」です。ここでは、区民の皆さんからご提供いただいたさまざまな資料を用いて、まちの歴史を明らかにするほか、郷土に関するさまざまな問い合わせに対応しています。

郷土、美術、文学・マンガの3分野の展示を、年に1回企画展として開催。さまざまな角度からとしまのまちの歴史を紹介しています。

秋山「今年は豊島区制90周年ということもあり、区制90周年を記念した展示会を2回開催します。5月から8月にかけて開催したのは『昭和の暮らしと遊び～昔の遊びを体験してみよう～』という企画展。日常の暮らしと遊びに光をあて、子どもも楽しめる企画を考えました」



会場にはけん玉やコマ・万華鏡などの体験コーナーをはじめ、寄贈された白黒テレビや電気冷蔵庫、黒電話などの生活道具も用いて昭和の暮らしの再現展示を配置。小学生の子どもたちやその親世代など、幅広い年齢層の方々が訪れ、アナログ時代の日常生活に興味深々だったようです。

秋山「2世代、3世代のご家族が一緒に楽しめるよう工夫しました。『懐かしさ』と『新しさ』、それぞれの楽しみ方で世代をつなぐ展示になったようです」

脈々と続く、としまのまちの歴史を将来に伝えていく当施設。文化を継承していくその姿には、まちや文化の「持続可能性」を考えるヒントがあります。

秋山「どのように資料を展示するのが来館者にとって見学しやすいのか、悩みどころです。資料は世界に1点しかない貴重なもの。緊張感を持ち、また寄贈者に敬意を払いながら取り扱っています」

10月1日からは、区政90周年特別展「豊島大博覧会～過去から学び、今日を生き、未来に希望～」を開催予定。豊島区の90年間の歩みを振り返るとともに、次の100年に向けた10年を見据えます。

特別展にあわせて制作された新たなジオラマを複数展示するなど、大博覧会にふさわしい展示になるとのことです。ぜひ一度足を運び、豊島区の歴史と未来に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

— 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

「子育てしやすい街ランキング1位記念：第1章」
 「共働き世帯が子育てしやすい街」豊島区。
 子どもと女性にやさしい、まちづくりの秘訣とは



2023.03.08

#子育て支援 #共働き #子どもと女性にやさしいまちづくり

[OVERTURE]

少子化が加速する昨今、全国の自治体ではさまざまな子育て支援策を打ち出しています。日本経済新聞社と日経BPの情報サイト「日経xwoman」の調査にて、この度豊島区は「共働き子育てしやすい街」ランキングにて全国1位の評価を獲得しました(※)。まち全体で子どもを育てる、豊島区の取り組みをご紹介します。

※首都圏などの主要市区や政令指定都市、県庁所在地市、人口20万人以上の180市区を対象に2022年9~10月に実施し、165市区が回答。

豊島区では、2014年に「消滅可能性都市」の指摘を受けて以来、より一層力を入れて「子どもと女性にやさしいまちづくり」に取り組んできました。現在では、保育園の待機児童ゼロを実現。さらに妊娠期のフォローから女性の活躍支援やまちの環境整備まで、幅広く取り組んでいます。

高際副区長「たとえばかかりつけ医のように、子育てを保育士さんに相談できる『マイほいくえん』事業は高く評価いただきました。それだけでなく、保健所から男女平等推進センター、教育委員会など複数の部署が横断的に協力し取り組んできた点が豊島区の子育て支援の強みです」

子ども家庭部 副島部長「区民の皆さんからも『こんな事業が必要だと思う』と意見もいただきながら一緒に考え、組み立ててきました。今回は、これまでの公民連携の豊島区の取り組みをご評価いただけたということで、みんなが自信を持つことができ、本当にうれしいことです。みんなで事業を育てる、という文化が豊島区にはあると感じています」



高際副区長



子ども家庭部 副島部長



今回のランキングは、「共働き」家庭が子育てしやすい街として評価されたことも、大きなポイントの1つです。共働き世帯は、現在の日本で増えつつある家族の形態ですが、仕事と子育てを両立する負担は大きく、当事者にとっては心配事が尽きません。そんな不安に寄り添う、伴走型支援のさらなる拡充を目指しています。

高際副区長「子育て世帯がいい意味で楽に暮らせるまちづくりを進めていく。そのために、今後はもっと多くの子どもたちの意見も聞いていき、そして、取り組みに携わるみんなが『子育てサポートが楽しい』と感じられる文化にしていきたいですね」

子どもの成長に合わせた途切れない支援。その実現のためには、組織の枠を超えた連携だけでなく、区役所内の環境整備も欠かせません。豊島区では、今後さらに子育てしやすい街を実現していくべく、関係する各部署それぞれの取り組みの現状と展望について、意見を交わす座談会を実施しました。第2章・3章では、座談会の様子を通じて各担当者の「想い」に触れてみてください。

[NEWS]

日経xwomanと日本経済新聞社が「自治体の子育て支援制度に関する調査」

2022年版「共働き子育てしやすい街ランキング」で総合編1位に東京都豊島区が選ばれました。ランキングの詳細はこちらをご覧ください。

— 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



「子育てしやすい街ランキング1位記念」第2章
年齢による「切れ目のない子育て」
それを支える支援の「つながり」

2023.03.08

#子育て支援 #共働き #妊娠前から中学生時代

[OVERTURE]

豊島区では年齢による「切れ目のない子育て支援」を掲げ、さまざまな事業を展開しています。保護者や保育者、そして子どもたちにとってより良いまちづくりを目指して日々奮闘する、職員たち。なかでも妊娠前から中学生時代を主にサポートする、「子ども家庭部」「池袋保健所・長崎健康相談所」「教育部」の取り組みに焦点を当てて、ご紹介します。

子ども家庭部 保育課 長澤課長 「保育士の皆さんと一緒により良い保育について日々考え、保育施設を巡回訪問し、保護者の方々のご意見を伺いながらさまざまな施策を展開してきました。その積み重ねが『共働きで子育てしやすい街ランキング』1位という結果につながったのではないのでしょうか。待機児童をゼロにするために保育施設を増やす『量』的な支援から、保育の『質』のさらなる向上へと転換するタイミングを迎えたと感じています」

子ども家庭部 保育課 鈴木課長 「評価が高かった取り組みの1つに『マイほいくえん』事業※があります。令和元年10月から始まった本事業ですが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、保育園が臨時休園していた時には、事業の継続が危ぶまれました。しかし、現場の保育園の職員がマイほいくえん登録者の方に電話をかけて、話を聞いたり、保育園と各家庭のつながりが切れないう、働きかけてくださいました。区立保育園が地域の子育て支援施設の中核であるという意識のもと、自分たちが在園児やその保護者だけでなく、在宅で子育てするご家庭のみならずもしっかり支えるんだという職員の熱意には頭が下がります」

※「マイほいくえん」事業とは

妊娠中の方やそのパートナー、在宅で子育て中の家庭を対象にすべての区立保育園を身近な子育て拠点「マイほいくえん」と位置づけ、様々な子育て支援事業（育児相談、園庭開放、離乳食講習会、保健相談など）を行っています（令和5年度は私立保育園等にも拡大予定）。



子ども家庭部 保育課 長澤課長



子ども家庭部 保育課 鈴木課長

高次副区長 「『マイほいくえん』事業や一時預かり事業がここまで機能するようになったのは、十分な数の保育施設が確保できるようになったからこそ。この基盤を強みにして、在宅勤務をしながら子育てを行う保護者の方もサポートの対象としていきます。そのためにも、保育現場のサポートがさらに重要になります。巡回指導にも力を入れ、現場で支えてくださっている保育士の皆さんに寄り添いながら、体制を整えていきます」

子ども家庭部 子ども家庭支援センター 山本所長 「出産前から子育て家庭を支援できているのは、保健所と子ども家庭支援センターとの連携が強いからだと思います。コロナ禍で相談に来れない方には、訪問または電話でフォローするなどアウトリーチサービスを強化してきました。困っている方をそのままにしておかない。そのためにも、関係機関との連携は欠かせません」

長崎健康相談所 大須賀所長 「行政は敷居が高いと感じる方も多いのですが、実際に会ってお話をすると色々なことを相談していただけます。ぜひ積極的に活用していただきたいですね。長崎健康相談所では伴走型相談支援を特徴としており、地域の担当保健師が妊娠から出産まで一貫した支援を行っています。コロナ禍でも変わらない支援を続けていくため、対面とオンラインの長所を上手く組み合わせた事業を展開していきたいです。私たちが得た情報を子ども家庭支援センターや児童相談所等の他部署と共有し、連携する。そして一人ひとりを理解していくことが大切だと思います」



子ども家庭支援センター 山本所長



長崎健康相談所 大須賀所長

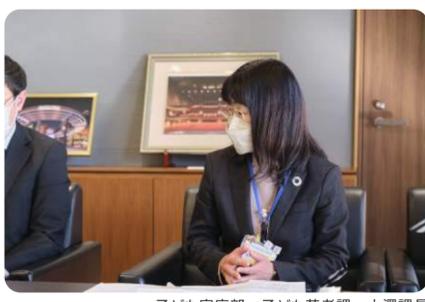
高次副区長 「豊島区の良さである連携をさらに強くしていきたいです。また行政機関だけでなく、保育園や小学校などの教育機関ともつながることができれば、切れ目のない子育て支援が実現すると思います」

子ども家庭部 副島部長 「そうですね。妊娠から出産、幼児期の支援を必要場合には小学校や中学校、またそれ以上の若者世代にまで、切れ目のない支援が届くようにするためにはどうしたらいいのか、という視点でこれまでも様々な取り組みを連携して進めてきました。ですが、まだまだこれから、引き続き大きな課題です。」

子ども家庭部 子ども若者課 小澤課長 「切れ目のない若者の支援の1つとして、『アシスとしま※』の中で教育委員会と協力して『アシスとおはなし』を展開しています。タブレットツールで子どもたちから相談を受けやすい体制をつくる工夫を実施中です。青少年育成委員会の方や保護司、NPO団体、こども食堂の関係者など、地域の方が積極的に協力してくるので心強いです。今後も皆さんと共に地域の子ども、若者を支えていきたいと思っています」

※『アシスとしま』とは

子どもとおおむね39歳までの若者を対象とした豊島区子ども若者総合相談窓口。必要に応じて専門機関と連携を図り、一人ひとりに合わせた支援プログラムを実施しています。



子ども家庭部 子ども若者課 小澤課長

教育部 放課後対策課 小野課長 「放課後対策などの小学校のサポートについては、23区では、外部委託する動きが加速しているそうです。豊島区のように区が担当しているのは珍しい。また、教育委員会の中に放課後対策を担う部署が入っていることも滅多にありません。この体制を新たに区が担当生活の一貫した支援まで一貫した支援ができています。また、『子どもスキップ※』も豊島区の特徴的な取り組みと言えるでしょう。当制度では、教員免許などの有資格者がスクール・スキップサポーターとして学校から放課後まで一貫して同じ子の支援を行います。放課後の様子を学校の先生方にフィードバックするなど、一人ひとりに寄り添った子育て支援の実現に寄っていると感じています。また、長期休みの時には宅配弁当を導入しているため、お弁当作りの大変さ軽減にもつながっているとの声も聞かれました」

高次副区長 「さらに上の年代を対象とした『中高生センタージャンプ※』と共に、子どもたちの居場所にしていきたいですね」

※子どもスキップとは

地域の方々の協力のもと、放課後の児童の保育等を行う取り組みです。区内在住または区立小学校に在学している全児童が利用可能。

※中高生センタージャンプとは

主な利用対象者を中高生等とした児童厚生施設（児童館）。中高生が生き生きと活動できる場として、季節ごとのイベント等さまざまなプログラムを実施しています。

教育部 教育施策推進担当課 坂本課長 「保育園、幼稚園、小学校の連携をさらに深めていきたいです。現在、区立認定こども園を新たに作る計画が進行中ですが、区立で初めてとなる認定こども園設置を見据えて、今年度から池袋小学校区施設定期的に保幼小職員会を開催しています。今後、さらに内容を充実させて、私立や区立の別、保育園、幼稚園、小学校といった施設の垣根を越えて職員の交流を生み出し、施設同士の連携を充実させて、就学前教育・保育の質の向上、小学校への円滑な接続を実現したいですね」



教育部 放課後対策課 小野課長



教育部 教育施策推進担当課 坂本課長

■関連リンク

- ・マイほいくえん
- ・アシスとしま
- ・スクール・スキップ
- ・中高生センタージャンプ

— 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を推進しています



【子育てしやすい街ランキング1位記念・第3章】
 充実化する女性支援とまちの環境。
 まちのムードを醸成
 子育て世帯を応援する

2023.03.08

#子育て支援 #共働き #子育てしやすいまち

[OVERTURE]

女性の就業支援や企業や区役所内での男性の意識改革、公園の整備など子育てしやすいまちづくりのためにさまざまな施策を展開する豊島区。子育てしやすいまちであり続けるために今できることは何か。「文化商工部」「総務部」「都市整備部」、それぞれの観点からの取り組みと想いを伺いました。

文化商工部 生活産業課 渡邊課長「豊島区では、特技や趣味を仕事にしたいという女性への就業支援事業として『サクラヌbiz応援プロジェクト※』という全8回の起業塾を開催するほか、女性起業家同士の交流会などさまざまな機会を提供しています。ビジネスに関する支援を行う機関として、『としまbizサポ(としまビジネスサポートセンター)※』がありますが、その中で、平成27年度から女性の起業家向けに相談会を随時開催。相談件数はこの3年間でどんどん増加しています。社会進出支援においてはインプットだけでなく、アウトプットの支援も重要です。そのため機会として、ISP(池袋ショッピングパーク)にご協力いただき、ご提供いただいたスペースでサクラヌbizから2店舗出展・販売する場を実現できました。今後もアウトプットの機会を提供するため地域と連携した支援を続けます」

※サクラヌbiz応援プロジェクトとは

豊島区で起業したい、もしくは起業した事業を経営している女性を対象とした女性のための起業支援事業です。

※としまbizサポ(としまビジネスサポートセンター)とは

地元金融機関や産業団体など、関連機関が一体となり、新しい協働のカチをとりながら中小企業を支援する施設。利用者の課題にあわせ、面談など、各種サポートを行います。

高際副区長「起業希望者を対象とした事業以外にも、子育てで仕事から離れていた方を対象とした再就職支援も行っていますよね」

総務部 男女平等推進センター 佐々木所長「女性向け再就職支援の取り組みは男女平等推進センターが中心となり、積極的に行っています。ハローワークなどと連携してセミナーや講座を年4回開催。仕事の紹介や面接支援のほか、今年度はより実践的な試みとして、ワークライフバランス推進企業に模擬面接にご協力いただきました。これらのセミナーはすべて保育付き。保護者の方も安心して自身のキャリアに集中できます。区民の方々に対するサポートのほかにも、企業向けにワークライフバランス認定制度を設け、国や東京都からの支援・助成金情報の提供なども行っています。働きやすい職場がもっと増えるよう、企業間連携の強化を目的としたワークライフバランスに関する座談会なども開催しています」



文化商工部 生活産業課 渡邊課長



男女平等推進センター 佐々木所長

高際副区長「セミナーには各回、30人前後の方がいらっやっています。近年はデジタル化もかなり進んでいます。デジタルに慣れていない世代の方々へのフォローにも力を入れていきたいです。区民の方向けはもちろんですが、区役所で働く職員の意識改革も重要です。」

総務部 人材育成担当課 梅本課長「ワークライフバランスの観点で、区役所の男性職員の育休取得率の高さを外部の方から評価いただきました。社会全体で育休取得を応援する動きに加え、女性管理職の増加も1つの要因かとは考えています。しかし育休取得にあたって、管理職をはじめ、職員の意識改革には依然として課題があり、マタニティハラスメントに焦点を当てた研修なども実施しています。子育て中の職員だけではなく、周りのサポートも必要であることをみんなが理解して、育休を取りやすい環境づくりを継続的に支援していきます」

総務部 人事課 木山参事「豊島区は女性職員が多く、今年度も新卒の7割が女性でした。育休制度にも通じますが、庁内がまず出産などのライフプランを考慮している前提の組織でありたいです。キャリアを中断せずに家庭と両立させていくため、ただ子育てしやすいまちではなく、『共働き世帯にとって、子育てしやすいまち』だと評価され続けることが重要です。行政がまちの子育てインフラを整えることで、広く地域の皆さんや民間企業等にも「豊島区は子育てしやすいまちなのだ」という認識をもってもらいたいです。これによりもっといい意味で楽に子育てできる環境にしていきたいですね。例えば保育園の下にスーパーや総菜屋があって買い物が楽とか」

高際副区長「意識改革は諦めずに継続していくことが必要です。特に忙しい共働き世帯にとって暮らしやすいまちになれば、自ずとほかの世代にとっても暮らしやすいまちに近づくのではないだろうか」



総務部 人事課 木山参事



総務部 人材育成担当課 梅本課長

高際副区長「子育てする親にとって公園の環境整備も大切だと思います。豊島区はこれまでに公園の環境整備にも力を入れてきました」

都市整備部 公園緑地課 片山課長「まち全体の整備が加速したのは、やはり2014年の消滅可能性都市の指摘を受けたことがきっかけですね。子どもと女性にやさしいまちづくりがスタートし、身近な場所からきれいな環境を整えていこうと、まずは『アートイレプロジェクト※』を実施しました。また、4つの公園を核にしたまちづくりは多くの方から好評をいただいています。そのほかの小さな公園についても、子どもたち本人の声も聞きながら、整備を進めていきます。また、近隣の教育機関と連携した子ども向けイベントも開催しています。草苑保育専門学校と協働で開催した水鉄砲大会は、金魚すくいのポイントを頭につけて行い、大盛況でした。今後は、『としまキッズパーク※』のようなインクルーシブ遊具を区内各地に増やしつつ、公園が誰もが過ごしやすい第三の居場所になるように環境を整えていきたいです」



都市整備部 公園緑地課 片山課長

高際副区長「今回いただいた評価は、それぞれの部署ごとに、そして横断的に子育てしやすいまちを目指し連携してきた結果だと捉えています。これからも子育てしやすいまちであり続けられるよう、庁内で連携して取り組んでいきましょう」

※アートイレプロジェクトとは

アーティストや地域のみなさんと協力し、地域のトイレを美装化するプロジェクト。利用する方に親しみをもってもらえるようなトイレを目指します。

※としまキッズパークとは

健常な子供だけでなく、障がいにより体が不自由な子や体幹が弱い子、乳児など、分け隔てなく誰もが一緒に遊べるインクルーシブ遊具や施設のある公園。車いすに乗ったまま遊べる砂場や、ハーネスの付いた横転の心配の少ないブランコなどを設置しています。

■関連リンク

- ・サクラヌbiz応援プロジェクト
- ・としまbizサポ(としまビジネスサポートセンター)
- ・アートイレプロジェクト
- ・としまキッズパーク

— 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



豊島区の「SDGsの担い手育成」を目指して。
区内の小中学校が挑んだ
取り組みの数々を振り返る。【前篇】

2023.06.12

#子ども #担い手 #ESD #環境教育

[OVERTURE]

豊島区教育委員会では、SDGsの達成を目指して「SDGs達成の担い手育成事業」に力を注いでいます。事業の「立ち上げ期」である2021～2022年度には、全30校の区立小中学校と保護者・地域・企業・大学等が連携して、SDGs達成に向けた取り組みを推進。その振り返りとして2023年6月、教育委員会主催の座談会を開催しました。豊島区教育長をはじめ、としまの教育に携わる方々のお話から、各校の個性あふれる取り組みについてご紹介します。

2030年での達成を目指すSDGs。ゴールを見据え、豊島区教育委員会が立ち上げた取り組みが「SDGs達成の担い手育成事業」です。SDGs達成のためにできることは何か。約2年にわたり、学校ごとにさまざまな角度から取り組みを進めてきました。

金子教育長「大切なのは、これからの未来を担う子どもたちの豊かな心を育むこと。2021～2022年度には予算を設け、区立小中学校全30校に分配し、各校でどんな取り組みができるのか考えてもらいました」



金子教育長



教育部教育施策推進担当課 後閑課長

教育部 教育施策推進担当課 後閑課長「企業や大学、区民の方々などさまざまな主体を巻き込み、各校がユニークな取り組みを展開しています。例えば、豊成小学校では株式会社良品計画と協働し、防災やフードロスに関する授業を行いました。PTAによるフードドライブ活動にも力を入れています。また、朝日小学校は大正大学と連携し、校内の緑化活動を始めとする環境学習に取り組みました。千川中学校では地域消防団と協力し、中学生によるD級ポンプ(※)消火隊を組織。『自分たちの地域は自分たちで守る!』というスローガンの下、防災を体験的に学んでいます」

※D級ポンプとは

地域住民が使用できる小型の消火装置。1分間に130リットル以上放水でき、高い消火能力を持ちます。操作方法は易しく、取り扱いを覚えれば少人数での操作も可能です。地域の町会や自治会、消防団の倉庫、学校などに配置されています。

学校SDGs推進アドバイザー 阿部氏「持続可能な開発のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)が、こんなに早く区内の小中学校に浸透したことに驚きを隠せません。今後は各校の取り組みが子どもたちや地域に与えた影響を、客観的な指標をもとに評価してほしいですね。また、豊島区は先進的な『SDGs未来都市』として、国内の自治体に担い手育成の視点を示すことが重要です。ユネスコスクールなどに加盟し、世界各国の学校と交流することも提案したいです。地域と学校が密接に関わる、豊島区ならではのESDを全面に押し出してほしいと思います」



学校SDGs推進アドバイザー 阿部氏



SDGs環境教育アドバイザー 榎野氏

環境の観点からお話を聞かせてくれたのが、SDGs環境教育アドバイザーの榎野氏とSDGs環境学習リーダーの町田氏です。

SDGs環境教育アドバイザー 榎野氏「千早小学校では、子どもたちだけでなく区民ひろばの方も活動に加わり、地域一体の取り組みを進めています。要小学校では、里山をイメージした植物を植えて『要の小径』を実現。目白小学校では名産である江戸東京野菜の『雑司ヶ谷なす』の地産地消を目指す取り組みを始めました」

SDGsの17ゴールの範囲は幅広く、何から手を付けるべきか悩む声も聞かれます。そこで子どもたちには、“People(人間), Prosperity(豊かさ), Planet(地球), Peace(平和), Partnership(パートナーシップ)”の5つのPの枠組みで考えるようにおすすめしているのだとか。

SDGs環境学習リーダー 町田氏「清和小学校で20年以上続く『ヤゴ救出大作戦』。この取り組みでは、プール掃除の前に子どもたちが網で水生昆虫をすくい、観察しています。水を貯めたプールはヤゴなどの水生昆虫にとって良いすみかですが、プール開き前の掃除で排水すると、その命を奪ってしまいます。当時は保護者という立場でしたが、生き物の命を守る取り組みとして、学校に声をかけ、子どもたちと保護者が参加して活動がスタートしました」

続く後篇では、豊島区が育んできた「担い手」たち、そして子どもたちの活動のこれからについてより深くお話しします。



SDGs環境学習リーダー 町田氏



— 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

「としまメソッド」を編み出し、誰もが主役の豊島区から
明るい未来の「担い手」を育む。【後篇】



2023.06.12

#子ども #担い手 #ESD #環境教育

[OVERTURE]

豊島区教育委員会による「SDGs達成の担い手育成事業」の「立ち上げ期」となった2021～2022年度。区内の小中学校では、多様な取り組みが進められました。2023年度以降は「推進・発展期」として、より一層の充実化が期待されています。さらなる発展を遂げるにはどうすれば良いのか。豊島区におけるSDGs・ESD(持続可能な開発のための教育)の未来像を考えます。

この2年でSDGs達成に向けた取り組みについて、深く理解したとしまの子どもたち。そんな担い手たちからさらに幅広い世代へSDGsへの理解と達成に向けた活動や取り組みが広がっていくことにも期待が寄せられています。

澤田教育部長「保護者の方々から『SDGsが子どもたちの将来にどんなメリットを与えるのか』と疑問を寄せられることもあります。大人に向けて持続可能な開発のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)の意義を伝える難しさを痛感しています」

金子教育長「豊島区の子どもたちはSDGsネイティブですが、親世代は必ずしもそうではありません。大人がSDGsを自分ごととして捉えるには、地球が絶体絶命の状況にあるという危機感を持つことが重要です。実際、豊島区は2014年に『消滅可能性都市』の指摘を受けたことで強い危機感を抱き、持続発展するまちづくりに取り組むようになりました」

学校SDGs推進アドバイザー 阿部氏「気候変動を始めとする環境問題や戦争など、世界には一朝一夕に解決できない問題があふれています。だからこそ、子どもたちが未来の希望を信じるためにSDGsが必要なのです。一方で、大人向けのESD(持続可能な開発のための教育)が不十分だという状況も見逃せません。子どもからSDGsを伝える、地域各所にSDGsにまつわるチラシを設置するなど、さまざまな手段でSDGsに触れる機会を増やすことが大切ではないでしょうか」

SDGs環境教育アドバイザー 榎野氏「私も、豊島区でSDGsの活動を発展させるには保護者を始めとする、大人のためのESD(持続可能な開発のための教育)が必要だと感じます。『人新世』という言葉に代表されるように、現在は人類の活動が地球に取り返しがつかないほど大きな変化をもたらしている時代です。そうした危機感を出発点にすれば、SDGsの取り組みがさらに広がるのではないのでしょうか」



金子教育長



澤田教育部長

子どもたちが地域の人々と交流する機会を設けているのは、小中学校だけではなく、SDGs環境学習リーダーの町田さんは、自身がボランティアとして参加する区民ひろばの活動をこう語ります。

SDGs環境学習リーダー 町田氏「区民ひろば清和第二で年2回開催しているのが、乳幼児とその保護者に向けた『生き物を見よう』というイベントです。ヤゴやバッタ、チョウといった生き物を室内に持ってきて、参加者に観察してもらっています。身近な場所で環境学習ができることはもちろん、子育て中の方々の孤立防止につながるという点でも、非常に意義のある取り組みだと思います」



学校SDGs推進アドバイザー 阿部氏



SDGs環境教育アドバイザー 榎野氏

区内のさまざまな場所で、加速する未来のためのアクション。その中には、区内の他の学校やエリアで実践できる事例も数多く含まれているはずです。

学校SDGs推進アドバイザー 阿部氏「2年間で各校の特色ある取り組みが広がったことは素晴らしいと思います。これまでの実績を活用すれば、豊島区ならではのSDGsの取り組み、いわば『としまメソッド』を編み出せるのではないのでしょうか。そして、そのためには各校の取り組みを共有することが欠かせません。教員の異動などをきっかけに活動が途絶えてしまわないよう、日頃から教員と地域の方々が必要に交流できるようなまちのかたちが重要です」

小中学校の児童・生徒に加えて、その保護者や地域住民、乳幼児までもを対象にした豊島区のESD(持続可能な開発のための教育)。「誰一人取り残さない」取り組みの数々が、地域のこれからを明るく照らしてくれることでしょう。



SDGs環境学習リーダー 町田氏



— 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

子どもも、大人も、ほっこりできるひと時を。
地域と一緒に子どもを育てる「としま子育てサロン」



2023.12.06

#子ども #子育て支援 #コミュニティ #福祉

[OVERTURE]

豊島区では、地域住民を支援するボランティアである民生委員・児童委員の方たちが数多く活躍しています。その活躍の場のひとつが、各地域の区民ひろばで開かれている「子育てサロン」。今回は区民ひろば駒込に足を運び、民生委員・児童委員の子育て支援部会長、比留間委員と巣鴨地区民生委員児童委員協議会の田中会長にお話を伺いました。

Profile

比留間 恭子

Kyoko HIRUMA



東京都民生委員・児童委員。巣鴨地区を担当。子育てサロン「さくらんぼ」の運営のほか、講師として工作や折り紙などモノづくりを教えることも。自身の子育ての経験を生かし、子どもと保護者双方のサポートを意識して活動している。駒込の好きなところは、下町情緒あふれる街並みとのおんびりした土地柄、桜が街中で咲き乱れる春の景色。

気軽に、無理なく、楽しく、自由に——。

豊島区では、各地域の区民ひろばで定期的に「としま子育てサロン」が開かれています。用意されているプログラムは回によってさまざま。絵本の読み聞かせや手遊び、ものづくりから、育児に関する情報共有まで、幅広く用意されています。

今回伺ったのは巣鴨地区の子育てサロン「さくらんぼ」。妊娠中の方を含め、0歳から3歳までの子どもとその保護者を対象に、月1回のペースで開催されています。

今日は、子育てサロン恒例の手遊び歌に続いて、ぬいぐるみや小道具を使った観劇会が行われました。外部の人形劇団ポケットの皆さんが、ピアノや音楽を用いながらさまざまなお話を繰り広げていました。楽しいパフォーマンスに、子どもたちの目は釘付けです。



プログラムが終わった後はフリータイム。自由に保護者同士で交流するほか、食事をとることも可能。民生委員・児童委員と一緒に、利用者が赤ちゃんの身長体重測定を行っている姿も見られました。

実はこの時間も子育てをサポートする重要な役割を担っている、と民生委員・児童委員の比留間さんは話します。

比留間委員「ずっと子どもと二人きりで向き合っていると、ストレスが溜まってしまう事もあると思います。子育てサロンは、子どもだけではなく大人もサポートの対象。民生委員・児童委員や他の利用者との交流を通じて、外部との繋がりを作ってもらうことも大事な目的の一つなんです」

田中会長「利用者の方の中には、複数の区民ひろばで子育てサロンに参加される方もいらっしゃいます。やはりこういった場が必要とされているということではないでしょうか」

また、民生委員・児童委員としての活動についてこう語ります。

比留間委員「活動を続けていると、昔子育てサロンを利用していただいていた保護者の方が道端で声をかけてくださることも、『あの時は助かった、ありがとうございました』と言われると、とても大きなやりがいを感じますね。」

地域のサポートを生かし、みんなで育てていく。
としまの地域全体が、あたたかく子どもたちを見守っています。



民生委員・児童委員 子育て支援部会長 比留間委員



巣鴨地区民生委員児童委員協議会 田中会長



比留間委員特製ケーキのおもちゃ。子どもたちの誕生日をお祝いすることも

[NEWS]

としま子育てサロンにいらっしゃい！

「としま子育てサロン」は、身近な地域で子育て中の親子が集い、交流することにより、仲間づくりや互いに育ち合うことができる場です。

— 関連するSDGs —



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています